桐蕾

編集発行　第32号
群馬県立桐生工業高等学校
桐生市西久方町1-1-41
TEL (0277)22-7141
FAX (0277)46-4703
同窓会事務局　編集部
印刷 太陽印刷工業株式会社

会長挨拶

「温かな心に感謝」

腰塚 富夫

同窓会員の皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。同窓会並びに母校の発展のため日頃よりご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

昨年度はコロナウイルスによる緊急事態宣言のこともあり、総会や親善ゴルフ大会の中止、桐蕾新聞発行の休刊など様々なところで影響が出ました。今年度も通常総会を計画しましたが蔓延防止の為、役員による書面議決に替えさせて頂きました。親善ゴルフ大会も組み合わせ会議が開かれ、120名の多くの方々の参加が決まり着々と準備が進んで開催する予定でしたが、直前に緊急事態措置が再度発令され、やむなく開催を断念しました。2年連続で中止になってしまい非情に残念です。そんな中、桐蕾新聞第32号が発行されたことで生徒さん並びに同窓生の皆様のご活躍の情報が共有されますことを大変嬉しく思います。

また、母校のコロナ禍における教育活動に対し、協力して頂いた方々がおります。昨年は疫病退散の安満美瑛様を名乗る会員からアルコール消毒液、別の同窓生からは機械科へ、沢山の特殊工具を寄贈して頂きました。物心両面の支援に心が温まりました。触発され、本部としても今年はライブ動画配信機材を寄贈しました。ビデオスイッチャー、キャプチャー、カメラ等オンライン授業には欠かせない機材です。これらの物が授業で活用され、さらに学校行事も活発になり、生徒さん並びに先生方が少しでもやりやすい環境になることを期待しております。

最後に昨年度「同窓会員名簿令和2年版」が無事に完成し、購入者に発送させて頂きました。名簿作成は賛助金・広告を含めた皆様のご協力が無ければできません。大変有り難く思います。より正確な名簿作成の為、登録内容の確認や連絡先不明者の情報ありましたら、引き続き情報提供をお願いします。

今後も会員皆様のご健康、ご多幸をお祈りするとともに、母校と同窓会発展のため、ご支援ご協力をお願い申し上げ、挨拶とします。

校長挨拶

「節目の年に人生を振り返る」

藤生 卓也

同窓会員の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。また日頃から本校の教育活動に対し格別の御支援を賜り心より感謝申し上げます。

この度、同窓会報「桐蕾32号」を発行されますことに心よりお喜び申し上げます。

さて、三年前の四月、前橋で辞令を受け取り、期待と不安が交錯する中、桐生工業高校へと赴任して参りました。途中の車中では、新元号「令和」の発表がラジオから流れてきました。大きな節目となる年に桐工に赴任できたことを誇りに思いました。月日の経つのは早いもので、あれから三年が経ちます。

私ことになりますが、桐生で大学生活を過ごしたこともあり、ふるさとに帰ってきたときのように懐かしく毎日を過ごして参りました。朝には桐工周辺を散歩し、地元の人と挨拶を交わしたり、季節の移ろいを肌で感じたりと有意義な時間を過ごしました。今思えばその散歩の時間が校長としての力の源となり、学校経営のヒントを得たり、学校を俯瞰したり、校長室だけでは得られない多くの情報を得たように思います。私の教員生活は太田で始まりました。教員としての「基礎形成期」を太田で過ごしたと言っても過言ではありません。部活動指導、初めての担任業務。多くの壁にぶつかったときに心の支えになったのは仲間でした。気心の知れた仲間は掛け替えのない宝物です。今振り返っても感謝の気持ちでいっぱいです。

そして今、教員生活37年間の集大成の時がやってきました。桐工で教員生活の最後を締め括ることができ大変光栄に思っております。桐工では「ものづくり教育の一層の充実」「部活動の活性化」「定時制生徒の活躍」を柱に学校経営に取り組んで参りました。最後の二年間は新型コロナの影響もあり、自分の思い描いた学校経営が十分できなかったように思います。しかし今日を迎えることができたのも教職員をはじめ、同窓会員の皆様の御理解と御協力の賜と心より感謝申し上げます。

桐生・みどり地区は生徒数減少が著しい地区であります。これからも地域との連携を深めるとともに、同窓生のお力添えをいただきながら桐工をPRし、桐工を群馬県一、日本一の工業高校にして、在校生はもちろんのこと中学生にとっても魅力ある学校にしていきたいと考えております。引き続き同窓会員の皆様の御支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、同窓会員の皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げ、挨拶とします。

●新旧副会長挨拶

新副会長　髙橋幸夫

このたび同窓会副会長の大役を仰せつかりました髙橋幸夫です。

今までは卒業生の一人でしたが、これからは同窓会役員の皆様と共に、様々な同窓会活動に取り組んで参りたいと思います。三年間お世話になった母校への恩返し、そして伝統ある桐生工業高等学校の為に、精一杯努力して参りますのでよろしくお願いいたします。

最後に、桐生工業高等学校のさらなる発展と同窓会の皆様方のご多幸を祈念いたしまして挨拶とさせていただきます。

新副会長　尾花靖雄

この度同窓会副会長を仰せつかりました尾花と申します。校長先生をはじめとする教職員皆様、同窓会役員皆様にご指導頂きながら、同窓会を盛り上げていけるよう精一杯努力していきたいと思います。桐工は専門的知識を学べる環境が整っており、当時学んだ事は現在の仕事や生活に役立っています。桐工卒業生である事に誇りを持ち、お世話になった母校に少しでも恩返しができるよう、同窓会活動に協力していきたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

前副会長　稲垣 清

同窓会役員再任のご依頼をいただきましたが、他の役職があったため、退任せざるを得なくなりました。申し訳ない気持ちでいっぱいです。

これからも矜持を持って桐生工業卒業生としてあゆんでいきたいと思います。桐工のさらなる発展を願い挨拶とします。

OB・OGの活躍

五輪イヤーにスポーツ関連で目を見張る活躍を見せる会員をご紹介します。

●今年の「東京2020オリンピック」で聖火ランナーを務めました、諏訪利成さん（H7C）。自身も海外初レース「2004年アテネオリンピック男子マラソン」で6位入賞を成し遂げ、現在は日立物流陸上部でコーチを務め、選手育成に励んでいます。

アテネオリンピック
笑顔でゴールする 諏訪利成氏

●東洋大学陸上競技部・女子長距離部門監督を務めているのが永井聡さん（H元W）です。ご本人は高校卒業後、強豪校で有名な東洋大学に入学、目標の箱根駅伝に2年次と4年次に出場し、実業団ではヤクルトでニューイヤー駅伝に4回出場しています。その後指導者として、2011年から監督に就任し、「全日本大学女子駅伝制覇」に向け指導をしています。

●昨年の全日本大学駅伝で6区5位の力走を見せた腰塚遥人さん（H30M①）。「第97回東京箱根間往復大学駅伝競走」に東洋大学の第8区ランナーとしてエントリーされ、当日は別ランナーが走り、残念ながら出場はしませんでしたが、今冬の箱根に向かって努力を続けています。

●常磐高校で30年以上指導しながら、三井住友海上女子陸上部の特別コーチも務めていた高木雅一さん（57C）。2021年2月にヤマダホールディングス女子中長距離部門の新監督に就任しました。常磐高校を全国高校駅伝出場20回の常連校に育て、2015年には過去最高の準優勝に導きました。現在「全日本実業団女子駅伝」優勝に向けて選手育成に励んでいます。

●大東文化大学スポーツ・健康学部准教授に今春就任した湯浅康弘さん（H2E①）。中・高教諭一種免許状を取得後、NSCA認定ストレングス&コンディショニングスペシャリスト、日本トレーニング指導者協会上級トレーニング指導者など様々な資格を取得されています。オリンピック選手やプロテニスプレイヤー、Jリーガー、大学生、高校生などのトレーニング・コンディショニングも指導されています。

●世界の舞台で活躍している奥澤秀人さん（H12M①）。学生の頃から体操競技でインターハイや国体に出場。2005年には「シルク・ドゥ・ソレイユ」のオーディションに合格し、2006年にデビューを果たしました。その後もツアーショーのメンバーで世界各地を巡ってきました。しかし、2020年3月に新型コロナウイルス感染拡大により、欧州ツアー中だった奥澤さんはフランスから一時帰国しています。帰国後はいつでも舞台に立てるようにトレーニングを続け、最近では仲間とパフォーマンスグループを結成し、地元の有鄰館で10月にパフォーマンスを披露しました。12月24日にも同公演が開催予定です。詳しくは「イグニス・デ・オルニス」のホームページでご覧ください。

有鄰館にて迫力ある技を
披露する奥澤秀人氏

他にも沢山のOB・OGが各分野で活躍しています。同窓会員として、誇らしいと思います。今後も母校から国内外問わず、各分野で活躍できるよう陰ながら応援します。また、在校生も諸先輩方の背中を見て、それぞれが目標に向かって努力していけるようフォローしていきたいと思います。

各支部だより

静岡県支部

事務局長　40E②　野竹康和

静岡県支部の支部報告を致します。本来ならば活動報告をと考えておりましたが、現状のコロナ禍の中にあってどの支部におかれても活動等が中止、または延期という状況ではないかと存じます。

奇しくも今ニュースでは、新たに蔓延防止等重点措置が、わが静岡県を含む8府県に発令され、我が故郷である群馬県もその一つであるとの報道に複雑な想いで筆をすすめています。5月に開催予定の中部支部との合同総会は中止となりまして、役員会も開けず電話、FAXにての打合せ会となりました。今後の課題として、今の時代オンライン化が進化しているので我が支部としてオンラインで会合、打ち合わせ等が出来ないか探究してまいりたいと思っております。（LINE、ズームで）支部内会員の皆さんは、長引くコロナ禍の中にあって、みな息災でおります。一日も早く終息することを願い、来年こそは元気な姿でお会いできるのを楽しみにしております。（R3・8寄稿）

関西支部

支部長　37D　高木 淑

コロナの終息が見込めない状況にあります。親睦活動を危惧しています。昨年度は、滋賀県産のメロンを関西支部会員各位へ配布いたしました。思いのほか好評でしたので、今年も同様な企画を検討してきました。本年は群馬県産の産物を、関西支部会員様へ配布の準備を進め、本月、沼田産リンゴを配布しました。

◆今後の活動予定

今年も1月開催予定の役員会招集は厳しさが、想定されます。毎年恒例となっている桐生名産わさび漬けの配布は、継続したい。

生徒・職員の活躍

ロボット研究部 県大会準優勝

ロボット研究部部長　藤岡　葵音

今年のロボット大会は、コロナウイルスの影響で一年ぶりの大会になり、部員全員が全国大会優勝を目指し活動してきました。最初は、一年生たちにアーク溶接や切断作業、プログラミングなどを教えました。今年のロボットは、従来の鉄の棒を四角形にアーク溶接で溶接したフレームに機構と車輪をてつけていましたが、車輪部分をレーザー加工機で加工した別のフレームを作り、その上に従来のフレームを載せ、足回りを強化しました。さらに、他校では使われていない、無線によるリモコン操作や赤外線センサーを使い壁にぶつからないようにしました。例年になく精錬されたロボットができたと自負しております。練習も重ね、大会前日の練習では、他校よりも高得点を出すことができました。それにとどまらず、最良調整を当日試合直前まで行い大会に挑みました。当日は、朝早く学校に行き準備をし、ついに我が校の番がやってきました。今年は三年生で1チーム、2年1年で1チームを組みました。試合準備や本番には試合メンバー以外の部員が積極的にコートを拭く雑巾やロボット用のバッテリーを準備してくれたり、ロボットの足回りを拭いてくれたりと全力でサポートしてくれました。3年生の本番、一回戦目は、自動操縦の動作不良により目標得点の半分という結果になり、二回戦目では今までなかった、ワイヤーを使った機構が故障してしまい思うように操作できず、準優勝という結果になりました。2年1年のロボットは、アイテムの得点方法の作戦を変えて、当日の朝までプログラム調整し、朝の段階で最高得点をたたき出し、優勝候補の1台として頑張っていましたが、ロボット運搬時に電源線とセンサーの配線の一部が断線で、一回戦は棄権となり、次に2回戦はコロナの影響で連続試合となり、センサー不具合のまま自立動作ができず、残念ながら得点が低く敗退となりました。敢闘賞を頂くことができましたが、来年は必ず優勝したいと悔しがっていました。ロボットの完成度だけでなく、その取り組み、操作、メンテナンス、状況判断、経験、コミュニケーションや判断力が大事だと、再度考える機会となり、部員個々がよく考え、成長できた良い大会となったと思います。サポートしてくださった先生、バックアップしていただいた同窓会や生徒会に感謝致します。

第77回 現展 新人賞

「桐生の糸と」

染織デザインコース　教諭　工藤　華織

桐生市は不思議な街です。世界のコレクションに布を提供している素晴らしい織物技術を持ちながら、表舞台でそのことが大きく取り上げられることがほとんどありません。情に厚くて新しい物が大好き。新しいアイデアや技術を次々に生み出す…桐生で生まれ育った私の桐生の職人さんたちの印象はそんな風です。生徒たちにもそんな街を誇りに思って欲しいといつも思っています。今回、私が賞をいただいた作品はそんな桐生の機屋さんからいただいた「残糸」つまり、織物として使われなかった糸を使いました。様々な糸を混ぜ合わせて色を重ねていくのは、まるでお絵かきのように楽しい作業でした。使った織機は竪機という大型の原始的な機で、生徒たちも使っている物です。最新技術ではないけれど、糸1本1本と向き合うのには最高の織機で、職人さんからいただいた桐生の糸でつくった作品が評価されたことを大変うれしく思います。

染織デザインコース 3年実習

今年度、染織デザインコース3年生の実習、織物班が企業（桐生絹織株式会社）とのコラボレーションで取り組んだのは、生徒のデザインでつくる風通織り（ガーゼ）のショールです。材料は織物が織り終わった後に残った糸を提供していただいて活用し、素晴らしいショールが織上がりました。リサイクルではなくアップサイクルです。デザインのテーマは「coco.uminasea（ココ・ウミナシー）（ここ、海なし）糸の水族館」です。海はないけど私たちには糸がある。織維の街で学ぶ生徒たちのデザインに合わせてたくさんの美しい色糸を使っていただき、生き生きと暮らす海の生物が織上がりました。卒業制作展に展示しますので、糸の水族館にぜひご来館ください。

写真部

今年度写真部には久しぶりに男子新入部員4名を迎え、1年生6名、2年生4名、3年生3名の総勢13名で活動している。他の部活動と同様、活動が制限され県春季大会、写真甲子園北関東ブロック最終予選もリモート開催となった。春季大会は限定された期間で撮影された画像データが審査され、1年機械科の須藤こなつが1年生の部で優秀賞を受賞した。

写真甲子園最終予選（北関東大会に相当）は3年生建設科髙野優菜、鏑木茜音、創造技術科岩﨑保乃華が出場するも全国出場には至らなかった。7月中は同窓会より寄贈していただいたワゴン車で四辻の齋嘉をはじめ後藤織物、日限地蔵、明治館等桐生市内の撮影スポットを精力的にロケすることができた。緊急事態宣言中の8月27日～9月2日赤坂の東京ミッドタウンにて2年建設科三谷明帆、創造技術科 武江和恋、村田風愛が入選を果たし、作品が展示された。全日本モノクロ写真コンテストである高校生の部は全国213名の応募者の上位10名が順位づけなくすべて入選として表彰された。

また、群馬県写真展覧会は展示・表彰式が3月20～26日に延期となってしまったが、審査は無事終了しており1年創造技術科武田杏が第7部1位の群馬県教育長賞、建設科 高坂翔が同じく3位の群馬県私立小・中・高等学校協会長賞が内定している。

陸上部

陸上競技部 古豪復活へ向けて

陸上競技部顧問　石田　友和

現在、陸上競技部は短距離11名・跳躍1名、長距離18名（男子14名・女子4名）で活動しています。今年度は5月に行われた県高校総体において、100m男子で小此木海翔（3年）が11秒07（10.1m）で5位、男子400mリレーにおいて、萩原優人（1年）、向田悠馬（2年）、梅澤嬉馬（2年）、小此木海翔（3年）の走順で走り、42秒68で6位となり、北関東大会に出場することができました。この活躍は陸上競技部全体の活気に繋がり、俺たちもやればできるんだという雰囲気が生まれてきました。その勢いで10月に行われた学校対抗（男子2部）では、陸上競技部全体が一つになってまとまり、多くの入賞者を出すことができ、総合では39点で6位入賞を果たすことができました。この入賞は2008年以来13年ぶりになります。しかし、かつては学校対抗1部校として総合優勝を何度も果たした桐工です。現状に満足せず、まずは来年度1部校に上がるための総合3位を達成するために日々の練習に励んでいます。

バスケットボール部

最強の挑戦者

バスケットボール部顧問　渋澤　克利

今年の桐工バスケ部の選手達には「最強の挑戦者」がよく似合う。特別な選手はいないがバスケが好きで勝ちたい気持ちに飢えている。ひたむきに、がむしゃらに、真剣にバスケと向き合える。攻守オールコートの走る全員バスケがチームの目標でありスタイルだ。

新型コロナウイルスの影響で困難な状況は今も続いているが、昨年中止となった県高校総体、インターハイ予選が5・6月に開催された。苦しい練習環境の中、走力アップと基礎練習でチームの力を蓄えた。ノーシードから始まった県総体、1、2回戦を持ち前のオールコートバスケでアクティブなプレーを展開し空に地に球を走らせ大差で完勝した。8強に挑む相手は健大高、各上相手に心身共に充実した挑戦者達は102-59の圧勝でベスト8へ進出した。準々決勝、王者育英に挑むも力及ばず第5位。しかし、彼らの目は次大会に向け輝きを増していた。シード校として始まったインハイ予選、彼らの勝利への執念はさらに強いものとなっていた。1、2回戦を全員出場、全員得点の全員バスケで完勝した。プレッシャーのかかるベスト8をかけた相手は市太田、しかし彼らに心配は無用だった。攻める挑戦者の気持ちでゲームを支配すると103-78の圧勝で走る全員バスケを貫いた。準々決勝、新島学園に惜敗し2大会連続の5位、実力をつけた彼らの表情は穏やかだった。

第5波の新型コロナウイルス感染症拡大の影響で8月後半から練習もできない状況下であるが、10月後半から始まる全国選手権予選に向け桐工バスケ部の挑戦は続く。

少林寺拳法部

少林寺拳法部は体育館1階の柔道場で技術向上や精神修養を目的に日々稽古に励んでいます。

令和2年11月8日、群馬県立桐生高等学校にて行われた第15回群馬県高等学校少林寺拳法新人大会に参加しました。男子規定組演武の部にて機械科1年生（現2年）の田島璃久と同じく照井崇由の組が優勝し、12/20に栃木で行われる関東大会と、3/26～28に香川で行われる全国大会への出場権を獲得しました。

関東大会では9位、全国大会では予選落ちとなりましたが、日々の修練の成果が実を結び大会を重ねるごとに良いパフォーマンスができたので、足りないものを補いながら稽古に励みたいと思います。

硬式野球部

直近の秋季大会は、ベスト16に進出。春夏もご声援お願い致します。

秋季大会結果

一回戦 対 伊勢崎 5-3 ○
二回戦 対 興 陽 8-1 ○
三回戦 対 太 田 1-4 ●

事務局だより

●役員変更等

就任・髙橋幸夫副会長（56E①）、尾花靖雄副会長（60E②）、田村吉朗常任幹事（46定M）、岩野和正第10支部長（43D）、平野邦明全日制教頭、渡邊真一定時制教頭、野口正夫事務長、上岡淳一事務局会計部長（62C）、関滉太事務局編集（H31S）

退任・稲垣清副会長（43D）、板井政夫常任幹事（26M・逝去）大澤映男常任幹事（H15定T）、山根嘉一第10支部長（40定DW・逝去）小島靖夫全日制教頭、齋藤隆定時制教頭、須永和伸事務長（53M②）、大澤秀夫事務局会計部長（53D）、猿山和男事務局編集（55E②）、須田彪太事務局編集（H27K）

●表彰者（銀盃贈呈）

板井政夫氏（26M）叙位叙勲・従六位端宝双光章

腰塚誠氏（41M①）叙勲・旭日小綬章受賞

高木菊男氏（42定M）危険業務従事者叙勲、端宝単光章（警察功労）

須永栄治氏（26W）高齢者叙勲・旭日単光章

定時制の近況

定時制教頭　渡邊真一

定時制の在籍生徒数は現在44名です。多くの生徒が仕事と学業に励みながら、充実した生活を送っています。

昨年度、コロナ禍により中止になっていた各部活動の大会が開催され、一昨年に続き、陸上競技部と剣道部が全国大会への出場権を掴みました。生徒たちが、授業を終えた放課後の限られた時間を使って練習した成果を十分に発揮した結果だと思います。しかし、全国大会がコロナ感染症急拡大時期の開催であったため、感染防止を優先して全国大会出場を断念することとなりました。大変残念でなりませんが、来年度は、今回惜しくも全国大会出場を逃した部活動の生徒も含め、全国の舞台で活躍してくれることと思います。

桐工定時制に通い、仕事と学業の両立に励んでいる生徒たちを、私たち定時制職員は一丸となって、全力で支援していく覚悟でいます。同窓生の皆様には、これからも御指導・御鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

てこそ出来たことだと思います。誠にありがとうございました。

また、会長からもありますように、「同窓会員名簿」が昨年完成しました。会員の長谷川遊子さん（50W）に表紙画「蒼の逢瀬」と裏表紙画「赤富士と龍図」、大澤秀夫さん（53D）に表紙題字を書いて頂き、素晴らしい装丁の名簿になりました。深く感謝を申し上げます。

各支部の活動もなかなかできず、大変苦労されていると思います。会報で「間」をつなぐことができれば幸いです。お伝えすることができなかった生徒の活躍は、ホームページに掲載していますのでご覧ください。

（編集担当 金子拓 H22E）

編集後記

2年振りに今年度はなんとか発行することが出来ました。本校の職員や生徒、同窓会の方々による協力があっ